

京都芸術劇場ニュースレター

募集中!

【京都芸術劇場友の会 会員】

《京都芸術劇場友の会》では、劇場の活動をより知っていただくため、会員の皆様に公演の詳しい情報をいち早くお知らせし、また、チケット割引や先行販売を通じて、少しでも早く劇場をご利用いただけるようサービスを行っております。ご用意できる特典はさまざまですが、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

《会員特典》

- ① 情報誌「京都芸術劇場ニュースレター」(年3回)や公演チラシを定期的にお届け!
- ② 京都芸術劇場チケットセンター(窓口・電話・オンラインストア)で会員番号によるチケット予約、1公演お一人様4枚(公演により異なる)まで割引料金にて購入可能!(公演により、予約・割引のない場合、窓口・電話のみの対応の場合もございます。)
- ③ 当学主催公演など、会員限定の先行販売あり!
- ④ 春秋座、studio21で行われる公開講座、公開シンポジウムなどもご案内!有効期限は入金日より1年間です。更新毎に年会費(2000円)をお納めください。

《入会方法》

Case 1. 劇場チケットセンター窓口にてお申し込み(窓口受付/月～金 10～17時)

Case 2. 郵便振替にてお申し込み

劇場郵便口座へ年会費2000円をお振込ください。

郵便局で青色の振込用紙にご記入ください。(振込み手数料別途100円程かかります。)

[口座番号] 00970-7-176517 [加入者名] 京都造形芸術大学 京都芸術劇場

[通信欄] ①友の会 新規入会 ②お名前(フリガナ) ③生年月日 ④FAX(あれば)

[ご依頼人] お客様の住所・氏名・電話番号(わかりやすい字ではっきりとご記入ください。)

【オンライン会員】

登録無料! 24時間ご予約可能! 選べる受取・お支払い方法!

公演情報をメールでお知らせ!

詳しくは、オンラインチケットストア(右記)へアクセス下さい。

(友の会にご入会いただくと、自動的にオンラインに登録いたします。)

劇場へ行ったら、ここにも行こう

観劇のお帰りに、開演までのお時間に。大学にある劇場ならではのお楽しみ。

【学生食堂】

隈研吾デザインの至誠館3Fにある見晴らしの良い学生食堂です。どなたも利用することができ、うどんやランチなど定番から期間限定メニューまで充実です。店長のおすすめは、カレーとデミグラスソースのどちらかを選ぶ「ふわふわオムライス」。日によっては土日営業していますので、観劇前に利用されてはいかがでしょうか。



左・半熟オムレツが美味しい《ふわふわオムライス》: 380円

右・ボリュームたっぷりの《ミックスランチ》: 390円

営業時間: 10:00-19:30 L.O

(土・日曜、春・夏・冬期休暇中は～14:00)、不定休



この度の東北関東大震災に被災された方々に、心からのお見舞いと哀悼の意を表し、一刻も早い復興をせつにお祈り申し上げます。

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
所長 渡邊守章
センタースタッフ一同

チケットお問合せ先

京都芸術劇場チケットセンター

tel. 075-791-8240

営業: 平日10:00-17:00・公演開催日

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター

京都芸術劇場 春秋座・studio21

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

tel. 075-791-9437 fax. 075-791-9438

URL: <http://www.k-pac.org/>

E-mail: k-pac@kuad.kyoto-art.ac.jp

京都芸術劇場ブログ

<http://www.kyoto-art.ac.jp/blog-theater/>



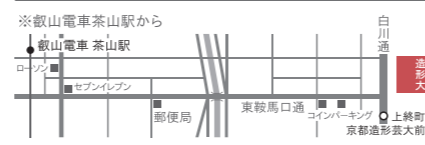
劇場モバイルサイト

オンラインチケットストア

<http://www.k-pac.org/ticket.html> (パソコンから)

<http://www.k-pac.org/theatre/m/m> (携帯から)

※オンラインでの取り扱いがない公演・券種もございます。



◎JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)

◎京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)

◎京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分

※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。

発行/編集 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
デザイン 吉羽 一之(シンプルホープ)

京都芸術劇場ニュースレター

vol.18

発行日—2011年4月1日

特集

P.P.Pasolini's PORCILE

豚小屋

川村毅×伊藤キム対談—1、2P

立川志の輔 独演会

古典と新作を織り交ぜた、志の輔落語の世界を春秋座で堪能—3P

日本芸能史「芸能と芸道」

瓜生山エクステンションセンター人気講座をご紹介します—4P



6月4日(土) ●公演情報の詳細は▶P.5

P.P.Pasolini's PORCILE

『豚小屋』

川村毅×伊藤キム対談

パゾリーニの映画に少年期に強い影響を受けたという川村毅により、日本で初舞台上演する「豚小屋」。戯曲として書かれた本作は、パゾリーニ自身が監督を務めた映画作品として1969年に公開され多くの映画ファンに知られています。本作品では川村作品に数多く出演し、誠実な雰囲気を持ちつつも妖艶な魅力を持つ俳優・手塚とおると、常に強烈な存在感を持つ放つダンサー・伊藤キムの共演、衣裳・美粧を担当する宇野亜喜良も見どころです。

川村 出てもらうことになったのは、去年僕が飲みに誘ったから。あれ、いつだっけ?

伊藤 夏? 夏よりも前ですよ。

川村 その時は「豚小屋」をやることと、03年「オルジア」のリーディングで出会った手塚とおるさんとまた一緒にパゾリーニやりたいねって話しはしていたの。で、手塚さんに対峙するもう一人の俳優が欲しいなって考えた時にキムさんアリだなって。で、セリフを言うことに興味があるって言うから誘ったんですよ。でも酔っぱらってのことだと思っていたでしょ?

伊藤 いえいえ。そんなことはないですよ。

川村 でもね、僕は前からキムさんと何かやりたいなって思っていたの。でもタイミングがなかったんだよ。そしたら同じ大学に勤めるようになって、お互い色々なことを経て、こういうタイミングになったんですね。

伊藤 僕自身、いろんなことをやってみたいタイプで、ダンスをずっとやってきたけれど、それ以外のこともやりたいなって。でも正直、芝居を見に行っても面白くなって。学生時代はよく見に行ったんですけどね。本格的に踊りをやるようになってからは、ほとんど見る機会はなく。けれど、ダンスってというものにある意味、飽きてきちゃって、そろそろいいかなって。

川村 ハハハ

伊藤 であれば今まで接点なかった芝居とか演劇にちょっと関わってみたいなと思ったんです。実は僕が学生時代に明大前の駅で電車を待っていたら、反対ホームに顔の大きな人がいるんですよ。何かで見たことがある人だなあって思っていたら「あ、第三エロチカの川村毅だ! 本物だ!」って。これが巡り巡って何年後に声をかけられるということになるなんて。

川村 アハハハ

伊藤 声をかけられて本当に嬉しかったです。

川村 アハハ。大体、こんなに簡単にOKしてくれると思わなかったの。

伊藤 そうですか?



川村毅(作家・演出家/舞台芸術学科 学科長)・伊藤キム(ダンサー/舞台芸術学科准教授)

川村 うん。だって芝居じゃない。キムさんはダンサーで出る方がいいのかなと思ったら、セリフを言いたい。ダンスの方はやりたくないって言われて。これは結構、意外だったね。

伊藤 いや、やりたくないっていうんじゃないで、ダンスだけだと面白くなかったんです。

川村 そういうのは今までやったことがあるから、面白くないって。

伊藤 そうそう、そうです。

川村 元々、パゾリーニには思いがあってね。僕は映画少年で、70年代はゴダールやフェリーニとか、いろんな巨匠の時代だったんだけど、みんなある種、変態的な監督で。中でも彼は異様に際立った独特の変態っていうか。僕が最初に見たのは名画座の時代だったんだけど、ビスコンティの『ベニスに死す』と2本立てで『テオレマ』。これがまた不思議でヘンな映画だって思ってね。『豚小屋』も最初、ほんとと訳わかんないと思ったけど。映画と戯曲はほぼ同じ世界。ドイツが舞台なんだけれど、2つの話が交互にあって、一方はナチスの残党が生き残って財界人になるっていう世界。クロツツという鉄会社の息子がどうも変で、豚小屋で豚と性交している話。もう一つは荒野で飢え死にしそうな人が、人肉を喰うまで追い詰められている。その話が交互に出てきて、最終的にクロツツはナチスの残党と合体して、さらに財界として大きくしようという、その時になぜか息子が豚小屋で性交ばかりして、最後は豚に喰われちゃうっていう。

伊藤 あー…。

川村 ただ、戯曲にはカニバリズムの方はないの。財界人の邸宅の話で、映画では出てこないスピノザっていう、オランダの哲学者が出てきてね。豚と性交する青年とすごく哲学的な話をするシーンがあるんだけど、そのスピノザをやってもらいたいんだ。

——伊藤キム、ニヤツと笑う。

川村 それと戯曲には無いけれど、荒野の人を喰うシーンを挿入したくて。人を喰う役をやってほしいの。それは新宿の街を舞台にしようと思うんだ。荒野じゃなくて。飢え死にしそうなホームレスが人を喰うハメになると。戯曲の世界やストーリー展開はそのままに、構成として投入させる。

伊藤 そこでちょっとダンス的なものとか…。

川村 ありかもしれないね。パゾリーニは75年にゲイの少年に撲殺されるんですよ。でもその後、少年は「殺していない」って言いだして、複数犯の可能性もあって謎のままなのね。彼は左翼、右翼の両方から狙われていたから、政治的な暗殺っていう説もあるんだけど。とにかく死んでから日本では忘れられた存在で、変わった映画監督みたいな感じでみられがちで、

伊藤 うーん。

川村 元々、彼は詩人でね。北イタリアの方言で詩を書いていたんだ。小説や社会評論もすごく書いていてヨーロッパでは、巨匠というか非常に重要な文学者なんだよ。だけど日本では小説はちょっと訳されているけれど、詩も社会評論もほとんど訳されていない。それでふっと見たら戯曲も6篇書いていることに気が付いたわけだよ。これはもう興味あるの、NYの古本屋でイタリア語版のパゾリーニ全集を購入して、どうにかして訳したいと思いつつ今に至ったって感じ。手ごたえがあったら、後の5本も順次やりたいなっていうのはあるんだよね。

伊藤 日本で上演している人はいないんですか？

川村 いない。唯一『オルジア』(2003年 演出・川村毅)のリーディングを世田谷パブリックシアター主催でやってね。それが戯曲の本邦初上演。それで非常に難解だけれども面白いって確信を得たわけ。で、まず『豚小屋』は映画になっているから、知っている人はピンツ！とくるだろうと思ってね。

伊藤 海外でやっている人は？

川村 海外ではやっている。イタリアでもやるしね。フランスの演出家がよくやるね。パゾリーニはイタリア文学のメインストリームから外れがちな難解さがあるんだよね。非常にスキャンダルな存在だし、彼を扱うのは覚悟がいるって思わせるんだよね。それと生前に戯曲を上演したらしいけれど、あまり成功しなかったという記録もあるの。死後、いろんな演出家がやって、それなりの評判を取っているんだけどね。あとカニバリズムとコミュニズム(共産主義)の問題。特にキリスト教の問題が日本人にとって遠いテーマってことで、あまり訳されなかったのかもしれない。

伊藤 豚と性交するって、まあカトリック、キリスト教世界だとかなりスキャンダラスー

川村 スキャンダラスだよな。

伊藤 今は違うと思うんですけど、日本はそういうことを取りたててワーワー言うわけではなかったんですよ。そのモラルとか…。

川村 だからね、そのモラルの問題がすごく重要でね。豚と性交して喰われてしまうってことをある種、肯定的にとらえているところが彼にはあると思うの。戯曲では、かつてナチズムを率いた今は資本主義の権化みたいな父親に対して従順するでもなく、反抗するでもなく、第3の道として豚と性交するみたいなのところがあるんですよ。

伊藤 うーん。すごっ…。

川村 『豚小屋』を作った頃はさ、学生運動をやってた頃でさ、過激なパゾリーニは学生の味方をするかと思ったら、それはブルジョアの息子たちの左翼運動にすぎない、それを排除するイタリア警官の方が田舎の貧乏な家の出身で、そいつらに俺は加担するってことを書いてるんだよ。財界人、父親に対する反抗などというのは所詮、金持ちの息子の口で言う革命に過ぎないってこういうわけよ。じゃあどうすればいいかっていうと豚と性交することだって(笑)。なんていうのかな、モラルを越えたような思想があって。

伊藤 別のモラルができちゃうぐらいのことですよ。それはつまり…。

川村 映画では、息子を喰われた父親たちは、最初から息子はいなかったことにしよう「シーツ！」ってとこで終わるんだけどさ。そこから何を読み取るかっていうか。

伊藤 スピノザの役柄が分かっていないんですけど、過激なことはやりたいと思いますね。20代はもっと余計な事を考えてやっていなかったんですよ。それがカンパニーを持ったりして責任とか、社会性とか、そんな事を考えるようになって、あんまりハマり出さなくなっただけですよ。それを一旦置いて、できるだけ過激にスッチャカメツチャカしたいなって。

川村 いいと思いますよ。そういうことを求めているんですけどね。基本的に僕の演出は、演者がどういうのを出してくれるか、提出してくれなければ成立しない現場なのよ。だから色々出してもらって。やりすぎたら「あ、それはやりすぎ」って止めるからさ。

伊藤 今回、僕はセリフがあるというのが新しいチャレンジで。この短い期間でできるかなって不安ではあるんだけど、逆に短期間でグッと集中させれば、いけるような気もするし、どうなんだろう。

川村 いやいや、いかなきゃいけないから(笑)。キムさんには、ダンサーとしての経験を生かして、成熟した過激さをやってほしいですね。 〈終〉



手塚とおる・伊藤キム 写真：元田敬三

4 april 2011

16日(土) 14:00開演 ◆春秋座

元劇団四季のソリスト
『柳瀬大輔 & 井料瑠美』—ミュージカル・コンサート—



柳瀬大輔 井料瑠美

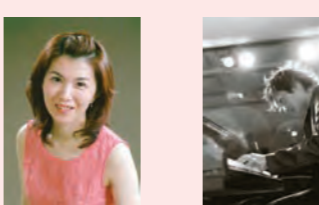
ダイナミックな歌唱に定評がある、元・劇団四季のソリスト柳瀬大輔と、透明感溢れる歌声が魅力の井料瑠美が歌いまくりです。「サウンドオブミュージック」「南太平洋」「オペラ座の怪人」「美女と野獣」「ライオンキング」「エリザベート」など充実のナンバーで、ミュージカルファンはもちろんのこと、老若男女などもたも気軽に楽しめるコンサートです。

柳瀬大輔———
ミュージカル「The Fantastics」(41工房) 主役マットでデビュー。1994年に劇団四季入団。入団早々に『オペラ座の怪人』でデビュー。以来『オペラ座の怪人』出演回数は1100回に及ぶ。その他『キャッツ』『ジーザス・クライスト=スーパースター』『美女と野獣』に主演。『ジーザス〜』は、1998年～2007年まで断続的ではあるが、シングルキャストでこなした。2009年退団。ファーストコンサートを開催するなど活動の幅を広げている。

井料瑠美———
1989年、劇団四季入団。ジャン・ジロドゥ原作の『間奏曲』で初舞台。その後『オペラ座の怪人』『ウエストサイド物語』『美女と野獣』『コーラスライン』のなど、数々のヒロインを演じる。2001劇退団。退団後も数々の舞台に出演。現在ステージ、ライブと、精力的に活動している。

劇場HPにて柳瀬大輔さんのインタビューを掲載中。併せてご覧ください。
<http://www.k-pac.org/>

ゲスト出演：松田ひろ子
ピアノ・エレクトーン演奏：鈴木ヤスヨシ



松田ひろ子 鈴木ヤスヨシ

【発売中・全席指定】
一般 4000円 友の会 3200円 シニア 3600円
学生&ユース 1000円(200席限定)
京都芸術劇場チケットセンター、大学生協のみ取り扱い

T-C OTS ぴあ e+ 新聞 KBS 音協 生協

T-C 京都芸術劇場チケットセンター OTS 劇場オンラインチケットストア ぴあ チケットぴあ—<http://t.pia.co.jp> TEL.0570-02-9999 e+ イープラス—<http://eplus.jp>
新聞 京都新聞文化センター(京都新聞社1F)—TEL.075-256-0007(窓口のみ/10-17時 ※土・日・祝除く) KBS 京都事業部—TEL.075-431-8300(10-17時 ※土・日・祝除く)
音協 京都音協プレイガイド—TEL.075-211-0261(10-18時30分 ※日・祝除く) 生協 京都、滋賀各大学生協プレイガイド

5 may 2011

28日(土) 18:00開演 29日(日) 14:00開演 ◆春秋座

立川志の輔 独演会 ●特集▶P.3

【発売中・全席指定】 学生&ユース席以外完売!
一般 4000円 友の会 3200円 シニア 3600円
学生&ユース席 1500円 ※座席範囲指定あり。

T-C

6 june 2011

4日(土) 14:00*、18:00開演 ◆春秋座 舞台上
(2回公演/*14:00開演の部終演後にトークを行います)

P.P.Pasolini's PORCILE ●特集▶P.1-2
豚小屋

【4月6日(水) 一般発売・整理番号付自由席】
一般 3500円 友の会 2700円 シニア 3200円
学生&ユース 2000円 瓜生山学園生 1000円

T-C OTS ぴあ

8月の公演のお知らせ
8月11日(木) 14:00
市川猿之助 芸術監督プログラム「松尾塾 子供歌舞伎」

公開講座

2011年度 公開連続講座「日本芸能史」
芸能と芸道 ●特集・スケジュールは▶P.4

前期(全13回) 4月11日—7月11日
後期(全12回) 10月3日—2012年1月23日

毎月月曜日 16:30—17:50 会場/春秋座 受講料/12000円

●お問合わせ 瓜生山エクステンションセンター Tel.075-791-9124

公開レクチャーシリーズ
「劇場の記憶—舞台芸術の半世紀—」

毎回火曜日 18:00—20:00予定

《1》5月24日(火)
「劇場のアルケオロジー」 講師：渡邊守章、森山直人

《2》6月21日(火)
「日本の伝統演劇における現代性①—能と狂言を中心に」
講師：松岡心平、渡邊守章

《3》7月19日(火)
「日本の伝統演劇における現代性②—歌舞伎と文楽を中心に」
講師：渡辺保、渡邊守章

【受付中】 前期3回 入場無料・要申込み

T-C

T-C

2011年度公開連続講座 10周年記念

4月11日—2012年1月23日

日本芸能史「芸能と芸道」

今年で10周年を迎える大人気講座です。この講座では日本に伝わる多様な伝統芸能の第一線で活躍している専門家に実演をまじえながら、解説をくわえていただきます。

2011年度は「芸能と芸道」がテーマ。「芸能」と「芸道」の二大分野が伝統文化の根幹をなすという視点から新しい日本文化論を展開していきます。

コーディネーター：田口章子
(京都造形芸術大学 芸術学部教授 / 舞台芸術研究センター主任研究員)



第10回 [6月20日]—「琉球舞踊」宮城能鳳(人間国宝)

前期(全13回) 2011年4月11日—7月11日
後期(全12回) 2011年10月3日—2012年1月23日
毎月月曜日 16:30—17:50 受講料 各期12000円
学習意欲のある方なら、どなたでも受講していただけます。

◎お問い合わせ・資料請求は…

京都造形芸術大学 瓜生山エクステンションセンター
Tel.075-791-9124 Fax.075-791-9021
受付/平日: 9時—17時
(土曜: 16時、休: 日曜日・祝日、年末年始、入試日)

【前期】芸能

第1回 [4月11日] 「総論 芸能と芸道」	理論: 諏訪春雄
第2回 [4月18日] 「舞楽」	実演: 天王寺楽所雅亮会 (解説: 木戸敏郎)
第3回 [4月25日] 「能」	実演: 片山九郎右衛門
第4回 [5月9日] 「京舞」	実演: 井上八千代
第5回 [5月16日] 「壬生狂言」	実演: 壬生大念仏講
第6回 [5月23日] 「琵琶」	実演: 上原まり
第7回 [5月30日] 「歌舞伎」	理論: 田口章子
第8回 [6月6日] 「日本舞踊」	実演: 坂東温子 (聞き手: 田口章子)
第9回 [6月13日] 「民俗芸能」	理論: 諏訪春雄
第10回 [6月20日] 「琉球舞踊」	実演: 宮城能鳳、西江喜春 (解説: 茂木仁史)
第11回 [6月27日] 「田原のカッコスリ」	実演: 多治神社民俗芸能保存会
第12回 [7月4日] 「神楽」	実演: 石見神楽温泉津舞子連中
第13回 [7月11日] 「長浜曳山まつり」	実演: (財)長浜曳山文化協会

※都合により、講師が変更になる場合があります。予めご了承ください。

※この講義は、舞台芸術研究センターのコーディネートによって、本学の授業を一般公開するものです。

【後期】芸道

第1回 [10月3日] 「総論 芸能と芸道」	理論: 諏訪春雄
第2回 [10月17日] 「香道」	理論: 畑正高
第3回 [10月24日] 「義太夫」	実演: 竹本源大夫・鶴澤藤蔵 (聞き手: 田口章子)
第4回 [11月7日] 「日本画」	実演: 千住博
第5回 [11月14日] 「常磐津」	実演: 常磐津都毘蔵・常磐津都史
第6回 [11月21日] 「煎茶道」	理論: 小川後楽
第7回 [11月28日] 「日本の建築」	理論: 諏訪春雄
第8回 [12月5日] 「華道」	実演: 池坊由紀
第9回 [12月12日] 「道具」	理論: 湯川弘明 (藤浪小道具)
第10回 [12月19日] 「小唄」	実演: 春日とよ子 (聞き手: 田口章子)
第11回 [2012年1月16日] 「料理」	理論: 森川裕之
第12回 [2012年1月23日] 「淀川三十石船船唄」	実演: 淀川三十石船唄大塚保存会

土方巽研究会 書籍

『土方巽——言葉と身体をめぐる』発売!



京都造形芸術大学舞台芸術研究センターでは、2009年6月から10年3月にかけて、「土方巽研究会」(全3回)を公開で開催しました。本書は、そこでの活発な議論を踏まえ、参加者が新たに書き下ろした文章を中心に編集した書物です。

舞踏だけでなく、日本の現代芸術全体に強烈なインパクトをあたえた土方巽(1928—86)の業績を、没後25年目の今、(表現の現在)へと接続するための新たな視点と可能性を探ります。

執筆者: 安藤礼二 / 稲田奈緒美 / 宇野邦一 / 國吉和子 / 田中弘二 / 三浦基 / 三上賀代 / 森下隆 / 森山直人 / 八角聡仁 / 山田せつ子 / 渡邊守章

A5版240ページ 定価1575円(税込) 発行=角川学芸出版/発売=角川グループパブリッシング
※全国書店、舞台芸術研究センターにてご購入いただけます。お問い合わせ: 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター Tel.075-791-9437

公開レクチャーシリーズ

「劇場の記憶—舞台芸術の半世紀—」

◎レクチャーの詳細は▶P.5

舞台芸術研究センター所長・教授の渡邊守章がゲスト講師を迎え、前期3回・後期3回にわたり、舞台芸術の水脈をたぐる公開講座を開催します。

前期(3回)

【1】 5月24日(火)
「劇場のアルケオロジー」講師: 渡邊守章、森山直人

【2】 6月21日(火)
「日本の伝統演劇における現代性①
一能と狂言を中心に」講師: 松岡心平、渡邊守章

【3】 7月19日(火)
「日本の伝統演劇における現代性②
一歌舞伎と文楽を中心に」講師: 渡辺保、渡邊守章

入場: 無料(要申込) 時間: 18:00—20:00予定